

お知らせ

第三十八回 数戸校区公民館まつりは無事終了しました。

ご協力ありがとうございました。

第十九回 ふれあいフェスティバル開催

今年はコロナ禍での開催のため、歩こう会とグラウンドゴルフ大会、二つの行事となりました。

「ふるさとづくり賞」が決定しました

数戸校区ふるさとづくり運動推進協議会主催の「ふるさとづくり賞」が決定しました。長年にわたり校区のふるさとづくりにご尽力いただいている皆さんです。

金澤 俊夫 様	(すこやかなまちづくり)
成清 如正 様	(生きがいのあるまちづくり)
穴本 萬寿雄 様	(生きがいのあるまちづくり)
中村 光治 様	(安心・安全なまちづくり)
戸田 洋水 様	(安心・安全なまちづくり)
佐藤 組子 様	(安心・安全なまちづくり)
吉弘 眞治子 様	(美しいまちづくり)

*表彰は公民館まつり開会式の前に行いました。

今月の歌 冬の星座 堀内敬三

木枯らしとだえて さゆる空より
地上に降りしく 奇(くす)しき光よ
ものみないこえる しじまの中に
きらめき揺れつつ 星座はめぐる

ほのぼの明かりて 流るる銀河
オリオン舞い立ち スバルはさざめく
無窮(むきゆう)をゆびさす 北斗の針と
きらめき揺れつつ 星座はめぐる

サロンどんぐりのお知らせ
石本高雅コンサート(入場無料)
12月28日(水)11時~

災害は忘れる暇なくやってくる

~災害列島日本~

「まさか」に備えて

いつ、どこで発生するかわからない自然災害。みなさんは、自分の住んでいる数戸地区に土砂災害や地滑りの危険箇所がある事を、存知ですか？近年起こった災害で実際に被災した方達の多くが「まさか自分の身に起こるとは」と語る場面を目にする

迫りくる南海トラフ巨大地震・津波に備える

災害列島日本。今年も多くの自然災害が発生しています。(広島市の土砂災害、台風による災害、木曽御嶽山の火山噴火災害等々)

私たちは自然災害に抗うことはできません。しかし、被害を減らすことはできます。

① 自分の命は自分で守る。
「自助」：注①
地域は地域で守る。
「共助」：注②

② ①が大切です。自助は七割から八割、共助が約二割を占め、消防・自衛隊などの「公助」は一部に過ぎません。しかも公助は「三日以上経つてから」と言われています。

③ その他(火山噴火、火災)などが考えられます。

「災害は忘れる暇なくやってくる」が現実になっています。南海トラフ巨大地震は向こう三十年七十%の確率で起こると言われています。一七〇七年の宝永地震(四十九日後富士山が噴火)で佐伯市米津で十メートルを超える津波がきたことが記録に残っています。(※成松家文書記載)

ことがあります。「この「まさか」を想像し、いざという時に備え日頃から『防災意識』を高めるために、「防災士」の池永さんにお話を伺いました。

※「防災士」とは、防災や救急法の知識・技能を持ち災害時には避難誘導や救助、避難所の世話などを行う人の事です。

学校防災では、防災教育、避難訓練、校舎の耐震化、「非構造部材」の耐震化が大切です。「非構造部材」とは、天井材、照明器具、キャビネット、書棚等を言います。頭上等への落下、転倒による人的被害のほか、避難経路の通行障害、避難場所として使用できない等の二次災害が起きます。固定等の対策が必要です。

さあ、「自分の命は自分で守る。家族は家族で守る。」にはどうすればよいか考えましょう。

注①自助：迅速な避難、住まいの耐震化、家具等の固定等。
注②共助：自主防災組織の活性化(防災避難訓練の実施など)、地域コミュニティ(向こう三軒両隣、地域催事等通して)の活性化等。

数戸校区公民館長
NPO法人大分県防災活動
支援センター 副理事長



池永 雅典 氏

平成26年2学期末の数戸小学校のPTA新聞に寄稿したものです。